

2007年3月18日

[ルート] R394 821m 地点 黒森

[参加者名] CL M.KIKUCHI 他 14 名

[コースタイム] 8:20 横内駐車場→萱野茶屋→R394 登山口駐車場→10:00 ブナ帯(休憩)→
10:30 山頂～10:40 下山→11:00 ブナ帯(昼食)～11:30→11:30 駐車場着 11:50 発

[登山口までのアプローチ、登山口の様子]

103 号線、萱野茶屋経由し火箱沢林道入口左折、銅像茶屋右折さらに田代十文字を右折し 394 号線に入る。394 号線を谷地温泉へ向かう途中、地図上の 821m 地点より取り付く。

[山行記録]

天気曇り時々晴れ、今年は里に雪が無く春を待つのかと思っていたら、3 月に入ってから寒さと雪。津軽で生まれた故の体の血がおちついたところでしょうか？

冬渋りの K.M・K.T・T.K さんが加わり、カンジキ隊 14 名とスキーの H.N さんで出発です。

2 月に M.K さんが木につけた赤布を目印に 821m から新雪を踏みしめブナ帯の緩やかな斜面を交代で登ります。木々の芽はまだ固く、山では春の訪れがまだ先のようです。休憩でホッと一息。

徐々に山も急になり風も強く、頬や耳が冷たくカンジキの足場も凍りつき、気を使いながら一步一步前進です。頂上近くは、風紋ができ、どれ一つ同じものはありません。風と雪のなせるワザです。

10 時 30 分には山頂到着。目の前には右手に雛岳、左手に高田大岳が現れましたがもう一度見たいと思っているうちに消えていました。眼下には私達が車で走ってきた田代平の道路がみえていました。風も強く、写真を撮り、すぐ下山。

ブナ帯で 30 分間の昼食。立つ人、しゃがむ人・ゆったりと座る人、スコップであづましく場所を作る人…。冬はそれが又自由で楽しい！ 登山口には 11 時 40 分到着。

帰りは喫茶店で反省会。 ゆっくりとした午後の時間！

黒森は私を含め初めての人が多く、八甲田の午前中の登山を満喫したようです。ありがとうございます。

報告 M.TSUJIMURA



2010年6月13日

- [ルート] 登山口⇄石倉岳
 [参加者名] CL Y.HANADA 他7名
 [コースタイム] 8:00 横内P→8:30 酸ヶ湯P→8:37 石倉岳鳥居前駐車 8:50
 9:10 山頂直下1150m付近着 9:30 登攀訓練 11:33 昼食 12:20
 懸垂下降訓練 13:42 下山→酸ヶ湯P→14:35 横内P 解散

[山行記録]

雲ひとつ無い快晴。2台に分乗して酸ヶ湯Pでトレタイム。大岳に登っているのだろうか、もう駐車場は満車に近い。今日は登山日和。石倉岳鳥居前は訓練への励ましかのようにツマトリソウ・タケシマラン・マイヅルソウ・ツクパネ・ノウゴウイチゴ等が出迎えてくれた。鳥居をくぐると合掌造りの丸太が祠を囲って大雪から守っている。前にはムラサキヤシオが供えたかのように艶やかな色で咲く。登山道は倒木などでかなり荒れている。山頂直下の小祠に着く。小祠の両側が訓練の岩場。



CL・SL 訓練の準備、各自装備点検。SLの模範登攀後低い方の岩場を2回ずつ、その後10m以上の高さの岩場を登る。この岩場の出だしが年々難しくなっている。昼食後懸垂下降訓練。

横内PでCLから『年に一度の岩訓練に参加、皆さんこれからは沢にも出かけて下さい』と沢参加誘いもありで無事に終了。今日の訓練ではロープワーク(ハーネスの形でロープの結び方異なる)三点確保(手・足の使い方、置き方、足先で立って体重移動する事が一番難しい)確保の仕方。セルフビレー確保支点(ビレーポイント)をとる事。ロープのしまい方。ロープは踏まない事等々を学んだ。

個人的感想 個人では出来ない岩訓練に参加して良かった。毎年参加したい。なかなか登れなかったため回数多く訓練でき感謝。

高所の岩場にいとだんだんその高度に慣れてきて緊張のなかにも周りを見る余裕が少し出た。下を通る103号や緑に覆われた南八甲田の景観も楽しめた。この喜びも岩訓練効果のひとつと感じた。

報告 M.MINAMI

